



五
張續公
張氏以爲
得城之
...

112-1111-11



為禿
右半

新撰荒玖波集

相良元衛門忠藤原為續

町田より申す殿人様
7日午本間此より色紙
本付の系書の内更月志秋
少白乃雷にけしむはら
わつと人共思わねそ
えんし海州此より
市記中心のまに
枕もつて海にけり
しと情をそくあ
し紙の文はとさる新

枚集他者二百廿余の九列

為續二枚百加事 湯乃高君

之存一 苗家無業本之候か考

一被護

相良元衛門

天明五年丙辰 初秋十三日 京都下着

相良元衛門